

JICA 関係者限定資料

キルギス

任国情報

1997年

JICA LIBRARY



J 1139185 (1)

国際協力事業団

国際協力総合研修所

JICA
C941
20
11C
LIBRARY

はしがき

この任国情報は国際協力のために赴任される専門家およびJICA役職員等に、任国での生活上必要な事項についての情報を提供するものです。

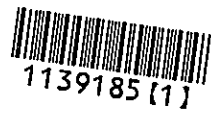
本書の刊行にあたっては当該国に派遣中の専門家等、JICA関係者の皆様より多大な御協力を得ました。また、外務省、在外公館、その他関係機関の御好意により、貴重な資料の一部を利用させていただきました。

今後も本書の内容を一層充実させ、常に新しい情報の提供に努めたいと考えております。

本書が国際協力の分野で活躍される方々の参考となれば幸いです。

なお、本書に記載された内容は、当該国に派遣中の専門家等、JICA関係者の皆様の執筆を中心にまとめたものであり、国際協力事業団の意見を代表するものではないことを付記いたします。

平成9年12月
国際協力事業団
国際協力総合研修所長



1139185 (1)

目次

| | | |
|-----|---------------|----|
| I | 概況 | i |
| II | 生活事情 | 1 |
| 1. | 食生活 | 1 |
| 2. | 衣料 | 3 |
| 3. | 住宅 | 4 |
| 4. | 医療 | 6 |
| 5. | 教育 | 8 |
| 6. | 家庭の使用人 | 9 |
| 7. | 交通事情 | 10 |
| 8. | 通信 | 11 |
| 9. | マスコミ | 12 |
| 10. | 教養、娯楽、趣味、スポーツ | 13 |
| 11. | その他のサービス | 15 |
| 12. | 観光 | 16 |
| 13. | 治安、緊急時の心得 | 17 |
| 14. | 出入国手続および帰国手続 | 18 |
| 15. | 私財の輸送、引き取り、購入 | 19 |
| 16. | 社交 | 20 |
| 17. | 任国官公庁 | 21 |
| 18. | 在外日本関係機関など | 22 |
| 19. | 地方都市 | 23 |

表-1：キルギス共和国概況

| | |
|---------------|---|
| 正式国名 | (和文) キルギス共和国 (英文) Republic of Kyrgyz |
| 独立年月日 旧宗主国 | 1991年8月31日 旧ソヴィエト連邦 |
| 政 体 | 共和制 |
| 元首の名称 | アスカル・A・アカエフ(Askar A. AKAYEV) (1995年12月再選、任期5年) |
| 位置・面積 | 北緯37~42度 東経70~84度 面積198千平方キロメートル (注1) |
| 首 都 | ビシュケク (旧称フルンゼ) |
| 総 人 口 | 4.5百万人 (1994年) (注1) |
| 民 族 等 | キルギス人52%、ロシア人22%、ウズベク人13%、ウクライナ人3%、 ドイツ人2% |
| 公 用 語 | キルギス語 |
| 宗 教 | イスラム教スンニ派 |
| 暦 | <日本との時差>不明 <祝祭日> (1997年) (注2) 1月1日 新年 1月7日 クリスマス 2月9日 Orozo Ait 3月8日 国際女性の日 3月21日 Nooruz, Kyrgyz New Year 4月18日 Kurban Ait 5月1日 メーデー 5月9日 勝利記念日 8月31日 独立記念日 |

出所 (注1) World Development Report 1996 The World Bank

(注2) The Europa World Yearbook 1996 Europa Publications

(1) 国土の概要

中央アジア東部に位置し、北でカザフスタン、西でウズベキスタン、南でタジキスタン、東で中国と国境を接する。天山山脈北側に位置し、国土の3分の2は3,000メートル以上（共同通信社資料、1995）の高地にある。面積は198千平方キロメートル（世界銀行資料、1996）で、森林はほとんどなく、大半は砂漠とステップ地帯である。

(参考文献)

【世界年鑑】 1995 共同通信社
World Development Report 1996 The World Bank

(2) 気候

大陸性気候のため気温の差が激しく、年間を通じて降水量は少ない。夏は乾燥しているが、気温はトルクメニスタンやウズベキスタンよりも低く、比較的過ごしやすい。首都ビシュケクの7月の平均気温は25度である。1月はマイナス10度～0度になるが、ビシュケクでは平均マイナス5度前後である（数値は国際開発センター、1994）。

(参考文献)

【経済協力計画策定のための基礎調査】 1994 国際開発センター

(3) 人口

1994年の人口は450万人である（世銀資料、1996）。

1990年の調査による主要都市人口は、首都ビシュケク62万7,800人、オシユ21万9,100人である（Europa Publications 資料、1995）。

(参考文献)

The Europa World Yearbook 1995 Europa Publications
World Development Report 1996 The World Bank

(4) 略史

表-2：キルギス略年表

| 年 | 出来事 |
|-------|-------------------------|
| 6世紀 | エニセイ川上流域にキルギス人の祖先が居住する。 |
| 8世紀 | ウイグル帝国の支配を受ける。 |
| 13世紀 | モンゴル・元朝の支配を受ける。 |
| 19世紀 | 帝政ロシアの支配を受ける。 |
| 1918年 | ロシア共和国の一部になる。 |
| 1926年 | 自治共和国に昇格する。 |

| | |
|-----------|-------------------------------------|
| 1936年 | 「キルギス・ソヴィエト社会主義共和国」と改称し、ソ連構成共和国になる。 |
| 1990年 12月 | 主権を宣言する。 |
| 1991年 1月 | 国名を「キルギスタン共和国」に変更する。 |
| 8月 | 独立を宣言する。 |
| 1992年 5月 | 独立国家共同体の集団安全保障条約に調印する。 |
| 1993年 5月 | 新憲法採択。 |
| 9月 | 国名を「キルギス共和国」に変更する。 |
| 1994年 1月 | アカエフ大統領の信任を問う国民投票実施。 |
| 9月 | 内閣総辞職。 |
| 10月 | 国民投票により二院制議会の創設を承認。 |
| 1995年 2月 | 二院制議会選挙実施。 |

出所 【世界年鑑】 1994 共同通信社
 「産経新聞」 1994年9月6日 産経新聞社
 「朝日新聞」 1994年10月24日 朝日新聞社
 Country Report:Georgia, Armenia, Azerbaijan, Kazakhstan,
 Central Asian Republics 1st quarter 1994 EIU
 The Europa World Yearbook 1995 Europa Publications

(5) 民族等

キルギス人は、北アジアに発生し、後にトルコ化した民族である。住民はキルギス人が52%と人口の約半分を占め、その他はロシア人22%、ウズベク人13%、ウクライナ人3%、ドイツ人2%である（数値は国際開発センター資料、1994）。

(参考文献)

【国際情報大事典 PASPO】 1992年 学習研究社
 【経済協力計画策定のための基礎調査】 1994 国際開発センター

(6) 言語

ロシア語を不自由なく使える人口は57%（キルギス人口では30%）である。主要言語としてチュルク諸語に属するキルギス語が幅広く（人口の54%）使用されている。キルギス語はハカス語やウイグル語に近いといわれている。1924年にはアラビア文字、28年にローマ文字が使用されたが、40年以降にはロシア文字が使用されている（数値は国際開発センター資料、1994）。

(参考文献)

【経済協力計画策定のための基礎調査】 1994 国際開発センター

(7) 宗教

キルギス人を中心にスンニ派のイスラム教である。

(参考文献)

【経済協力計画策定のための基礎調査】 1994 国際開発センター

(8) 文化

キルギス人は長い間、文字による歴史記録を持たなかった。口伝されてきた叙事詩「マナス」は英雄マナス王を称えた詩で、50万行にわたって民族間の戦争、生活習慣、民族構成、経済生活の様子、儀礼、周辺の国々の状況、キルギスの美しい風景などが織り込まれており、現在も「マナスチ」と呼ばれる吟唱者たちによって歌い継がれている。

(参考文献)

【キルギスタンへの誘い】 1995 日本キルギスタン友好協会

(9) マス・メディア

1) 新聞

1993年現在、国内で新聞は128紙あり、1紙当たり平均112万9千部が発行されている。主な新聞には、Kyrgyz Tuusu（週5回、部数不詳）、Slovo Kyrgyzstana（週5回、部数不詳）、Vecherny Bishkek（週5回、51,500部）などがある（EuropaPublications資料、1995）。

(参考文献)

The Europa World Yearbook 1995 Europa Publications

【世界年鑑】 1995 共同通信社

2) 放送

ラジオはドム・ラジオ、通信社はキルギスカバルがある。

(参考文献)

【世界年鑑】 1995 共同通信社

表-3：経済指標 [キルギス]

| 主要経済指標の 推移 | | (1992) | (1993) | (1994) |
|------------------------|---|------------|------------|----------|
| GDP (百万ソム) (注1) | | 525.0*1 | 5.7 | 10.0 |
| 一人当たりGNP (\$) (注2) | | 820 | 850 | 630 |
| 実質GDP成長率 (%) (注1) | | -15.9 | -16.1 | 26.5 |
| 消費者物価上昇率 (%) (注1) | | 855.0 | 1,209.0 | 278.0 |
| 失業率 (%) (注3) | | 記載なし | | |
| 貿易収支 *2 (百万ルーブル) | | -17,810 | -5.4*3 | N.A. |
| 輸出額(fob) | | 52,762 | 100.4*3 | N.A. |
| 輸入額(fob) (注1) | | 70,572 | 105.8*3 | N.A. |
| 主要輸出入相手国 *4 (注1) | | 輸出 (1992年) | 中国 (36.6%) | |
| | | 輸入 (1992年) | 米国 (32.8%) | |
| 経常収支 (百万\$) (注1) | | 記載なし | | |
| 対外債務残高 (百万\$) (注4) | | 0.6 | 309.0 | 441.3 |
| 債務返済比率 (%) (注4) | | 0.0 | 0.4 | 4.8 |
| 外貨準備高 (百万\$) (注2) | | N.A. | N.A. | N.A. |
| 通貨 (注1) (1997年4月9日) | 通貨単位：ソム (Som) 1ドル = 17.6 ソム (1993年6月、独自通貨ソム導入) | | | |
| 会計年度 | 1月1日～12月31日 | | | |

(注) *1 : 百万ルーブル。

*2 : 国内価格は中央計画経済制度下で設定された内部価格を示しており、国際市場での価格とは実質的に異なる。

*3 : 旧ソ連以外との貿易。単位はドル。

*4 : 旧ソ連との貿易比率は含まない。1992年の旧ソ連との貿易は、輸出が87.8%、輸入が95.5%である。

出所 (注1) Country Report: Central Asian Republics: Kazakhstan: Kyrgyz Republic, Tajikistan, Turkmenistan, Uzbekistan 2nd quarter 1995, 1997 EIU

(注2) World Development Report 1994-1996 The World Bank

(注3) Year Book of Labour Statistics 1995 1995 ILO

(注4) World Debt Tables 1996 1996 The World Bank

II 生活事情

1. 食生活

1-1 食料

(1) 一般事情

食料品は市内の小売店でも購入可能であるが、品数、鮮度、便利さから、市内各所に設けられているバザール（青空マーケット）で買うのがもっとも便利である。中でもオシユマーケット、アラミディンマーケット、オルトサイマーケットがもっともポピュラーである。そのほかに、輸入物の菓子やジュース、ビールなどを販売している小売店もあるが、品数は限られている。こうした正規のマーケットのほか、週末には市内各所の街頭で店を開いて食料品を売る光景が多くみられる。

(2) 主な食料品の出回り状況

米 …… 時折市場に出ているが、精米の程度は悪く、日本人好みでないものが多い。

野菜 …… 季節によって出回るものに違いがあるが、夏季はキャベツ、きゅうり、トマト、タマネギ、大根、長ネギ等豊富であり、白菜などの野菜も秋に売られている。

果物 …… ブドウ、モモ、リンゴ、洋ナシが夏季に出回るほか、スイカ、メロンも爆発的に出回っている。レーズンやあんず等そのほかの乾燥果物も多い。

肉類 …… 牛肉、鶏肉、羊肉、豚肉等が豊富に売られている。

乳製品 …… 牛乳は瓶詰めでパック詰めのものではなく、マーケットなどでは量り売りもされている。そのほかヨーグルトなどの乳製品も豊富に売られているが、いずれも加工の程度はよくない。

酒類 …… 国産のウォッカ、コニャックが豊富に売られているが、そのほかに土産物にもなる薬用のハーブ酒がある。最近では輸入品のワイン、ウイスキー、ビールなどが出回っている。

その他 …… ハチミツの生産が盛んであり、容易に入手できる。

(3) 食料の入手

市内、郊外を含めて数多くの青空マーケットが開かれ、食料品の売買が行なわれている。食料品の購入はこのバザールを利用するのが便利である。オシユマーケットは規模も大きく、終日買物客で混雑している。輸入品を扱う小売店では缶詰、菓子、葉巻、タバコなどが売られている。

1-2 食器、調理器具など

(1) 食器、調理器具などの入手

茶わん、皿などの陶器は中国製の安価なものがでまわっているが、種類は多くない。やかんや鍋もあるが、中には品質に問題のあるものもある。スプーン、フォーク、ナイフも簡単に曲がってしまうものが少なくない。

(2) 日本から持参した方がよい食器、調理器具など

現地で購入できる物もあるが、品質を考えれば、日本から持参するのが望ましい。電化製品については、トルコ、韓国、中国、日本などからの輸入品が多くなってきている。家電使用のための電圧は 220 ボルト（50 サイクル）であり、変圧器は日本から持参した方がよい。

1-3 外食

(1) 飲食店

外国人が利用できるレストランは増えてきており、トルコ、フランス、イタリア、韓国、中国料理などが味わえる。

一般のレストランの中には、価格表示があいまいな店があり、店員によって不当な請求をされる場合もあるので、支払いには注意を要する。

よく利用されているレストランは次のとおりである。

<中華料理>

バラサグン、フラミンゴ、天山飯店等のレストランがあるが、めん類、ギョーザ、春巻などはない。夕食で250ソム程度である。

<韓国料理 >

ハンゴックコアン、ミナ、また、イシクルホテルの7階にもレストランがある。

<トルコ料理 >

レストラン「ノールズ」がある。

<フランス料理>

レストラン「カトリーン」がある。

<イタリア料理>

キルギスタンホテルの1階にレストランがある。

<キルギス料理>

「ソンクリ」レストランがある。街なかの郷土料理店であり、1階は大衆用、2、3階はフォーマルなレストランとなっている。ディスコもあり、にぎやかで、どちらかという宴会やパーティ向きのレストランである。

<インド料理>

レストラン「イースタン・ウェスト」がある。

2. 衣料

2-1 衣料

(1) 一般事情

中国大陸へ続く天山山脈のなかの山岳国家であり、さらに内陸気候のため季節による寒暖の差が激しい。夏は45℃（8月）に達することもあるれば、冬はマイナス20℃くらい（1月）になることもある。したがって夏、冬に備えた衣料の準備が必要であり、特に冬は防寒着の着用が必須である。

(2) 日本から持参した方がよい衣料

すべての衣料品である。特に下着は多めに用意すること。

(3) 任国で調達した方がよい衣料

仕立てが不十分なものが多く、あまり勧められない。

(4) その他の留意点

該当情報なし。

2-2 礼装

(1) パーティー

特別な服装は用いない。

(2) 式典

礼服が必要である。

(3) 冠婚葬祭

該当情報なし。

(4) その他の留意点

該当情報なし。

2-3 洗濯、仕立て、修繕、保管

(1) 洗濯

ドライクリーニングサービスはない。ホテルにはクリーニングサービスがあるが、スーツなどのクリーニングはできない。

ほとんどの家屋は洗濯排水のための排水栓がない。

(2) 仕立て、修繕

仕立て、修繕をしてくれる店はあるが、材料があまりない。

(3) 保管

該当情報なし。

3. 住宅

3-1 住宅事情

(1) 一般事情

旧ソ連の住宅政策により、集合アパートの建設に重点がおかれたため、ビシュケクなどの都市部の住宅はそのほとんどがアパート形式である。中でも5階建てくらいのエレベーターなしの造りが多い。地方には依然として遊牧生活を行っていた時代のテント式家屋（ユルタ）が普及している。近年は新規住宅投資がなされていなかったせいか、ほとんどのアパートは築後年数が古く、建築技術も旧式であり、外観も内装も古びたものが多い。窓ガラスにアルミサッシが使われているものは皆無である。これらのアパートは国有であったが、近年、払い下げによって徐々に個人所有となっており、またロシア人、ドイツ人の国外への移民のため空き家となっているものが多い。平均的な居住面積は60平方メートル程度であるが、両親、親族との同居が多い。

民間賃貸住宅の供給は、空き家も多く供給の方が多いが、特に外国人向けの物件は少ないため探すのはかなり困難である。

暖房ヒーター、給湯設備がついている物件が多い。

3-2 ホテル事情

旅行者、一般外国人の利用するホテルは次のとおりである。

<ドステーキホテル>

中国との合弁により1991年に建設されたホテルで、多くの外国人が利用している。内装、設備も整っており、テレビは衛星放送の受信によりCNN、BBCが視聴できる。Euroカード、Masterカードが使用できる。宿泊料は77ドル（朝食付き）。

テレビ、バス、冷蔵庫、暖房ヒーターの設備がある。

<アクケメホテル>

トルコとの合弁によるホテルで一番新しく、多くの外国人が利用するようになってきている。内装、設備も新しくテレビはドステーキホテルと同様に衛星放送が視聴できる。宿泊料は120ドル（朝食付き）で、ビザカードが使用できる。

<イシクリホテル>

閑静な郊外に建つ韓国との合弁によるホテルであるが、建物は古く、建築構造上セキュリティに問題がある。また、市中心部より遠いため不便である。宿泊料は80ドルで、朝食が含まれる。

<ビシュケクホテル>

インツーリストのホテルである。

3-3 住宅の探し方

外国人に住宅を斡旋する不動産屋はなく、個人的な知人の紹介に頼るしかない。家賃は外国人の増加に伴って徐々に高くなってきている。

3-4 住宅の選定上の留意点

住宅構造は、治安上の対策はまったく取られていないのが現状であるが、選定にあたってはセキュリティを優先して考慮すること。また周囲の環境も大切な条件である。

アパートは古い建物が多いので、給湯栓や、排水管の状況、暖房用スチームの作動をよく確認することが肝要である。

3-5 住宅の契約

契約はドル建て、1年分もしくは2年分の一括払いとなっているケースが多い。家賃は単身用の1DKが月300ドル、3DKが500ドル程度であるが、備え付けの家具の程度によって異なる。家賃は経済状況の激変のなかで変動が激しい。

3-6 電気、ガス、水道などの手続と管理

電気、水道は家賃に含まれるのが一般的である。電話使用料を払い込む必要があるが、市内電話の料金は一定であり、電話回数や時間による増減はない。

3-7 その他

住宅の供給は需要を上回っているが、人口の都市集中が起こっており、住宅事情については変動が大きい。

また、老朽化したものが多く、入居前に改修が必要となる物件が多い。

4. 医療

4-1 赴任前の準備

(1) 予防接種

特に定められた予防接種はないが、ジフテリア、破傷風、狂犬病等の接種は受けた方がよい。

(2) その他の準備

一般常備薬や、特に服用している薬については携行する必要がある。特殊な薬剤の現地調達はほとんど不可能である。

歯科治療は日本で済ませるべきである。

4-2 医療事情

(1) 医療機関

病院は数多くあるが、設備も薬品も十分ではないところが多い。

(2) 緊急時の対応と措置

該当情報なし。

4-3 医薬品など

(1) 携行することが望ましい医薬品

携行可能な医薬品については、ひととおり持って行くことが望ましい。

(2) 任国で調達できる医薬品

かぜ薬や腹痛などの薬は売られているが、入手できる薬はきわめて少なく、副作用も考えられるので注意を要する。

(3) 任国で調達できる衛生用品

該当情報なし。

(4) 医薬品を使用する場合の留意点

該当情報なし。

4-4 妊娠、出産、育児

(1) 妊娠した場合の対応

現状では日本での出産が望ましい。

(2) 出産後の対応

乳幼児食品などの入手が困難であり、衛生状態が良くないため、母子の健康管理、栄養面からも出産直後の育児には困難が伴う。乳児死亡率が日本に比べると高い。

(3) 育児

育児施設はあるが老朽化が激しい。

4-5 手術

(1) 任国で可能な手術

医師のレベルに較差があり、設備も整っていないため、外科手術は避けた方がよい。

(2) 手術設備の状況

外科手術の設備は整っていない。

(3) その他の留意点

該当情報なし。

4-6 任国でよくかかる傷病

(1) 一般の疾病

かぜ、下痢が多い。

(2) 風土病・伝染病

これといった風土病はない。ただし、地方の山間地では虫さされなどで異常に膨れるケースがあるので注意を要する。

(3) 有害動物、病害虫

該当情報なし。

4-7 保健衛生

(1) 飲料水

ビシュケクの飲料水の水質は比較的よいが、煮沸をしてから飲用するのが望ましい。ミネラルウォーターの入手は可能である。

(2) 濾過器の入手

日本から持参する必要がある。カルシウム分が多いため、すぐ目詰まりを起こす。

(3) その他の留意点

野菜、果物などの残留農薬に注意する必要がある。

5. 教育

5-1 教育事情

(1) 一般事情

教育制度は非常によく整備されており、初等教育から大学、技術専門学校の高等教育機関も十分に普及している。専門技術、職業訓練などの教育はロシア領土で行なわれていたことから、知的職業・作業はロシア人が占めていた傾向が強い。

英語教育は十分に普及していない。子弟の現地での教育に関しては、まだ設備、教育環境とも十分ではない。近年、日本への関心が強く、日本語教育に関心が高い。

(2) 日本人学校

ない。

(3) 現地校、外国人学校

現地校の初等教育で英語、フランス語、中国語、日本語、スペイン語の授業を取り入れる学校も出てきた。トルコ系の外国人学校がある。

(4) 幼稚園

該当情報なし。

5-2 入学手続および授業料

該当情報なし。

5-3 教育関係施設

(1) 図書館

施設はあるが、蔵書はロシア語書籍のみである。

(2) スポーツ施設

体育館、屋外・室内プール、テニスコート、サッカー場等がある。

5-4 家庭学習

通信教育を受けたい時には、海外子女教育振興財団が行なっている海外向けの通信教育を受けるとよい。小学校、中学校の国語、数学、理科、社会などが受けられる。詳細については下記に問い合わせるとよい。

東京本部

住所：〒 105 東京都港区虎ノ門 1-21-17 虎ノ門NNビル 6階

電話：03-3580-2521

関西分室

住所：〒 530 大阪市北区梅田 1-3-1-200 大阪駅前第一ビル 2階

電話：06-344-4318

インターネット：<http://www.joes.or.jp>

6. 家庭の使用人

運転手、メイドなど、家庭での使用人の雇用はほとんどない。都市部では教育水準も高く、なんらかの仕事がある現状である。そのため使用人の雇用はむずかしいが、インフレ、低賃金など経済状況は悪化しているため潜在的な供給のポテンシャルは高い。外国人には現地人の紹介で雇用している人が多い。

7. 交通事情

7-1 交通手段

(1) 一般事情

公共交通機関であるトロリーバス、バスがもっとも一般的であり、料金も非常に安い。タクシーもあるが、白タク業が一般的であり、運転手によっては割高の請求をされることが多い。通りで手をあげると止まる。

街の道路は信号制御されている。最近では車の数も多くなり、渋滞も発生するようになった。車両、歩行者ともに交通マナーはよくないため、運転、歩行には十分な注意を要する。

(2) 自家用車を利用する場合

ガソリンの入手は困難であり、ガソリンスタンドに行列ができることが多い。ガソリンの質はあまりよくない。

ほとんどがロシア製の古い車であり、日本車は部品の調達が困難である。

(3) レンタカーなどを利用する場合

代理店はあるが、車の状態がよくないうえに不当に高値である。車だけを借りることはできず、ドライバー付きとなる。個人的に車を持っている運転手に依頼して1日50ドル程度で借り上げることが可能である。

(4) 道路地図

市内地図が売られているが、道路地図の用はなさない。地図類の入手は困難である。

7-2 交通事故

(1) 対処方法

衝突事故などは現状を動かさずに警察に連絡し、警察官の現場検証を待つのが一般的である。

(2) 救急病院

該当情報なし。

(3) 盗難

盗難が多く、安全のためには盗難防止装置などの対策が必要である。近年、保険会社が盗難保険などもある。

7-3 交通違反

該当情報なし。

7-4 車の修理

(1) 部品

日本車の代理店はなく、部品の調達は困難である。ロシア製の車も同様である。

(2) 修理工場

車両の増加に伴い、修理工場も多くなってきている。

8. 通信

8-1 電話

(1) 一般事情

電話設備は旧式のものが多く、通信事情は非常に悪い。ビシュケク市内の電話回線はある程度整備されてはいるが、混線、不通が頻繁であり、雑音などで聞き取りにくいことがある。

電話料金は非常に安い。

(2) 国内電話

国内料金は使用の頻度に関わらず一定であり、月払いで電話局に払い込む。

(3) 国際電話

日本への通話は申し込んでから 30 分以内でつながり、聞き取りにくい点もあるが会話に問題はない。料金はソム払いで、1 分につき 60 ソム (4 ドル) 程度である。

8-2 電信

(1) ファクシミリ

日本への送信状況は悪く、判読できないことがある。

(2) テレックス

該当情報なし。

(3) 電報

該当情報なし。

(4) インターネット

交信が可能である。

8-3 郵便

(1) 一般事情

以前は国外郵便はもとより国内郵便でさえ信頼性は低く、効率は非常に悪かったが最近は改善されてきている。郵便ポストに投函することは禁物である。

(2) 課税

該当情報なし。

9. マスコミ

9-1 新聞

- (1) 主な日刊紙
新聞はロシア語のみである。
- (2) 本邦日刊紙
該当情報なし。
- (3) 欧米紙
該当情報なし。

9-2 ラジオ

- (1) ラジオ放送局
該当情報なし。
- (2) ラジオジャパン
受信が可能であるが、山岳地帯であることから受信状況は非常に悪い。高感度機種が必要である。
- (3) 任国で聴取可能なその他の外国放送
該当情報なし。

9-3 テレビ

- (1) テレビ放送局
該当情報なし。
- (2) テレビ受信
テレビは国内制作の番組のほか、ロシアからの番組も放送されている。英語放送の番組はインドをベースとしたBBCのスターチャンネルの他、CNNの衛星放送が受信可能であるが、受信機器を個人的に設置する必要がある。

10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ

10-1 映画、演劇

(1) 映画館

映画館はあるが、名画などの上映は少ない。

(2) 劇場

季節によってバレエ、オペラなどの上演がある。

10-2 出版、書籍

(1) 一般事情

旧ソ連で出された書籍のみであり、ロシア語の物ばかりである。

書籍の印刷はロシア領土内で行なわれていたため、新しい出版物はない。

(2) 書店

書店はきわめて少なく、扱っている書籍も種類が少ない。

10-3 文化活動、文化施設

(1) 一般事情

旧ソ連時代に整備された博物館や美術館があり、民族色豊かな展示内容となっている。旧体制において芸術活動が奨励された影響により、美術館の展示とともに街には絵画の展示即売の画廊もある。

(2) 日本・任国友好協会などの有無と活動内容

キルギス・日本センターが95年にビシュケクに設立され日本文化の紹介、セミナーの開催等が行われている。また、日本語講座も開設され日本語に対する関心も高まってきている。

10-4 娯楽、遊戯など

(1) 娯楽、遊戯、ゲーム

該当情報なし。

(2) レジャーランド、娯楽場、遊園地

サーカス公演を行なう建物がある。

(3) ディスコ、カラオケ

一般的なレストランは、生バンドが演奏するディスコを併設していることが多く、こうした場所が唯一の娯楽場となっている。

10-5 スポーツ

(1) ゴルフ

ゴルフ場はない。

(2) テニス

テニスコート場があり4面備わっている。

(3) 水泳

屋外及び室内プールがある。

(4) その他のスポーツ、用具、ウェア

スキー場があり、スキーができる。そのほか山歩きや登山ができるので、トレッキング装備や登山用具があれば楽しめる。

(5) スポーツクラブなど

ビシュケク郊外の山間部に温泉治療を目的としたサナトリウムがあり、強アルカリ性の温泉が楽しめる。このサナトリウムは国営となっており、温泉に入るには特別の手配が必要である。

10-6 子供の遊び

夏季は街の噴水施設が子供の水遊び場になっている。

11. その他のサービス

11-1 金融機関

銀行制度の整備が徐々に進んでおり、外国為替の送金を扱う銀行も増えてきている。現地銀行に口座を開設し、生活費、公金を引き出すことができる。なお、クレジットカード（一部のホテルを除く）、トラベラーズチェックはまだ使用できない。ドルも使用できる場所は限られており、高額ドル紙幣のおつりがない場合もある。

11-2 コンピュータ

該当情報なし。

11-3 美容院・理髪店

美容院、理髪店は街なかであり、料金は安い。剃刀の消毒などの衛生管理が不十分であったり、技術的に少々雑な場合もある。

12. 観光

主要観光地・保養地ガイド

<アラ・アルチャ渓谷 >

ビシュケクから車で40分程度。雪をかぶった山々と渓谷のなかにあり、夏季はバーベキュー、山歩きが楽しめる。山中に付近の山で遭難死した登山家の墓がある。

<イシクリ湖 >

ビシュケクより車で4時間、250キロメートル東方にあり、シルクロードの神秘的な湖として世界的に有名である。同湖の北方の山向こうはアルマトイのメデオがあり、徒歩4日の行程でのトレッキングが可能である。同湖の北側は比較的開発が進んでいるため神秘的とはいえないが、南側は天山山脈を控えて開発は遅れている。

13. 治安、緊急時の心得

13-1 暴動、クーデターなど

該当情報なし。

13-2 強盗、盗難

(1) 一般的治安状況

空き巣、ひったくり及び強盗等の犯罪は頻繁に発生しており、殺人等の凶悪犯罪も時々発生している。最近では外国人宅を狙った空き巣が増加しており、警戒強化を要する。実際の犯罪件数は統計上の数字より多い。

(2) 防犯対策

夜間のひとり歩きは危険なのでやめた方がよい。

(3) 被害時の心得

該当情報なし。

14. 出入国手続および帰国手続

14-1 入国時

(1) 空港からの主な交通手段

バス、タクシーが利用できる。タクシーの場合、市内まで 20 分程度の距離である。

(2) その他の留意点

同国への入国は、空路によりモスクワ或いはイスタンブールから入る方法と隣国カザフスタンのアルマトイより陸路で入る方法とがある。

アルマトイ～ビシュケク間は車で 3 時間程度（除く冬季）であり、途中カザフスタンとの国境を越えることになるが、入国、税関審査はない。

14-2 出国時

該当情報なし。

14-3 帰国手続

該当情報なし。

15. 私財の輸送、引き取り、購入

申請は複雑であるが、所定の手続きを行い関税を支払えば可能である。

16. 社交

これといった社交場はないが、高級レストランがその代替となっている。

17. 任国官公庁

当面の日本からの技術協力にかかわる窓口官庁は、下記のとおりである。

- ・ State Commission on Foreign Investments and Economic Assistance
TEL : 996(3312)22-32-92 (ゴスコムインベスト)
- ・ State Property Fund
TEL : 996(3312)22-77-06

この組織は昨年組織改編により国家資産委員会の下部組織となった。

18. 在外日本関係機関など

なし。カザフスタンのアルマトイとウズベキスタンのタシケントに日本大使館があり、在カザフ日本国大使館が今年の 6 月 2 日より兼轄する事となった。

19. 地方都市

地方都市としてはオシュ、タラス、ナリン、カラコル、ジャラルアバッド等の都市が上げられる。人口 25 万人以上の地方都市はない。

任国情報をご利用の皆様へ

この任国情報は政府間技術協力のために開発途上国へ赴任する JICA 派遣専門家および JICA 役職員等が任国への入国および滞在するために必要とされる情報、とくに生活情報を提供するものです。

専門家および JICA 役職員等は、技術協力協定や要請文書などの国際約束により、税金の免除等一定の義務が免除されるなどの特別の条件が付与されています。

本情報は、これらの条件に基づいたものであることを、あらかじめご了解願います。

-----アジア地域-----

- 1.バングラデシュ
- 2.ブータン
- 3.ブルネイ
- 4.カンボディア
- 5.中華人民共和国
- 6.インド
- 7.インドネシア (ジャカルタ、バンドン、
ジョグジャカルタ、メダン)
- 8.大韓民国
- 9.ラオス
- 10.マレーシア
- 11.ミャンマー
- 12.ネパール
- 13.パキスタン
- 14.フィリピン
- 15.シンガポール
- 16.スリ・ランカ
- 17.タイ (バンコク、チェンマイ、コンケン)
- 18.ヴェトナム
- 19.モンゴル

-----中近東地域-----

- 1.アルジェリア
- 2.バハレーン
- 3.エジプト
- 4.イラン
- 5.ヨルダン
- 6.クウェイト
- 7.モロッコ
- 8.オマーン
- 9.カタール
- 10.サウディ・アラビア
- 11.スーダン
- 12.シリア
- 13.チュニジア
- 14.トルコ (アンカラ、イスタンブール)
- 15.アラブ首長国連邦 (ドバイ、アブダビ、M717)
- 16.イエメン (サナア)

-----太平洋地域-----

- 1.フィジー
- 2.キリバス
- 3.ミクロネシア
- 4.パラオ
- 5.バブア・ニューギニア
- 6.ソロモン諸島
- 7.ヴァヌアツ
- 8.西サモア
- 9.トンガ
- 10.マーシャル諸島

-----欧州地域-----

- 1.カザフスタン
- 2.キルギス
- 3.ポーランド
- 4.タジキスタン
- 5.トルクメニスタン
- 6.ウズベキスタン
- 7.ハンガリー
- 8.ブルガリア

-----アフリカ地域-----

- 1.ベナン
- 2.ブルンディ
- 3.カメルーン
- 4.カーボ・ヴェルデ
- 5.コモロ
- 6.エチオピア
- 7.ガンビア
- 8.ガーナ
- 9.ギニア
- 10.ギニア・ビサオ
- 11.コートジボアール
- 12.ケニア
- 13.リベリア
- 14.マダガスカル (アンタナナリボ、アンチラナナ)
- 15.マラウイ
- 16.モーリシャス
- 17.モザンビーク
- 18.ニジェール
- 19.ナイジェリア
- 20.ルワンダ
- 21.サントメ・プリンシペ
- 22.セネガル
- 23.セイシェル
- 24.ソマリア
- 25.タンザニア (ダルエスサラーム、ザンジバル)
- 26.トーゴ
- 27.ザイール
- 28.ザンビア
- 29.ジンバブエ
- 30.スワジランド
- 31.ボツワナ
- 32.エリトリア

-----中南米地域-----

- 1.アルゼンティン
- 2.ボリビア (ラ・パス、サンタクルス)
- 3.ブラジル (ブラジリア、サンパウロ、リオデジャネイロ、
ポルトアレグレ、ベレーン)
- 4.チリ
- 5.コロンビア
- 6.コスタ・リカ
- 7.ドミニカ共和国
- 8.エクアドル
- 9.グレナダ
- 10.グアテマラ
- 11.ホンデュラス
- 12.メキシコ
- 13.パナマ
- 14.パラグアイ (アスンシオン、エンカルナシオン)
- 15.ペルー
- 16.セント・ルシア
- 17.トリニダード・トバゴ
- 18.ウルグアイ
- 19.ヴェネズエラ
- 20.ニカラグア

「任国情報（キルギス）1997年版」

平成9年12月31日発行

編集・発行所 国際協力事業団 国際協力総合研修所

〒162 東京都新宿区市谷本村町10番5号

電話 (03)3269-2357

